

あきばやま

秋葉山古墳群と相模川流域の古墳時代を考える

海老名市教育委員会 押方みはる

1. はじめに

全国には約16万基の古墳や横穴墓があり、神奈川県内では約1200基の古墳や横穴墓が確認されています（『令和3年度周知の埋蔵文化財包蔵地数』文化庁より）。その内、全長100mを超える古墳はなく、国の史跡に指定されている秋葉山古墳群（2005年指定）、^{ながえ}長柄桜山古墳群（2002年指定）は共に古墳時代前期の古墳です。

古墳時代は概ね3世紀半ばから7世紀までの約350年間にわたり、前期、中期、後期とそれぞれ古墳や集落の様相が大きく移り変わりました。今回は、秋葉山古墳群の築造に始まった相模川流域の古墳時代の様相について、分布の変遷を概観し、各時期の特徴的な事象について紹介し、古墳時代について考える機会にしたいと思います。

2. 秋葉山古墳群とはどのような古墳群なのか？

（1）立地

- 標高75～80mの座間丘陵上、クランク状の尾根筋に5基の墳墓が近接して築造。
- 西に大山と丹沢の山々を望み、眼下には相模川流域の低地が広がる。東側には横浜方面を望む。

（2）発掘調査の成果

- 弥生時代終末から古墳時代前期にかけて継続的に造られた墳墓群。
- 出土土器からの築造順は「3・4号墳 → 2号墳 → 1・5号墳」と考える。
- 墳形は前方後円墳、前方後方墳、方墳と異なる墳形からなる。
- 前方後円墳は後円部の形が整い、前方部が発達する様子がわかる。
- 3号墳では墓坑上で土器、朱を使った祭祀、2号墳では朱、円筒形土製品、火を使った祭祀が行われていた。
- 2号墳の円筒形土製品は相模川流域の初期埴輪か。

3. 相模川流域の古墳分布の移り変わり

（1）前期古墳と集落

【古墳の特徴】

- | | |
|----|--|
| 東岸 | 秋葉山古墳群（海老名市）、上浜田古墳群（6号墳、瓢箪塚古墳 ^{ひょうたんづか} ）（海老名市）、大（応）神塚古墳（寒川町）、灯塚 ^{かがりづか} ？（海老名市） |
| 西岸 | 及川伊勢宮遺跡1号墳 ^{おいがわいせみや} （厚木市）、ホウダイヤモンド1号墳（厚木市）、小金塚古墳（伊勢原市）、愛甲大塚古墳（厚木市・伊勢原市）、真土大塚山古墳（平塚市）、御所塚古墳（平塚市）、牛山古墳（平塚市） |

【東岸】

- 秋葉山古墳群が相模川流域最奥部に位置。北部には古墳が存在しない。
- 秋葉山3、4号墳、2号墳 → 上浜田第7号墳「瓢箪塚古墳^{ひょうたんづか}」へ。
- 4世紀後半には 秋葉山1、5号墳、大（応）神塚古墳が造られる。
- 灯塚^{かがりづか}は古墳の可能性もある。
- 自然堤防上では方形周溝墓が造られる。

【西岸】

- ホウダイヤモンド1号墳 前方後円墳、壺型埴輪が特徴。
- 愛甲大塚古墳 相模川流域最大級の前期前方後円墳。柳葉型鉄鍬^{やないばがたてつぐ}採集、周溝から土師器が出土。
- 真土大塚山古墳 砂丘上の古墳。前方後方墳説、前方後円墳説。三角縁神獣鏡^{ともえ}、巴形銅器、銅鍬、玉類等が出土。
- 小金塚古墳 円墳。周溝から古式の朝顔型埴輪などが出土。
- 及川伊勢宮遺跡1号墳^{おいがわいせみや} 最近発見の古墳。西岸では最も北の前方後円墳。
- 下流域低地に円墳、円形周溝墓、方墳の牛山古墳がある。

【集落の特徴】

- 東岸自然堤防上に河原口坊中遺跡^{かわらぐちぼうちゅう}・杜家宇治山遺跡^{しゃけうじやま}・中野桜野遺跡（海老名市）等。
- 水上交通の要所、後背湿地の水田可耕地に接する自然堤防上で変遷する。
- 相模野台地中津原面にも集落がある。
- 相模国分寺跡南側で弥生時代後期後半の大規模な溝が発見され、注目される。
- 西岸中流域では、子ノ神遺跡・宮の里遺跡（厚木市）のように台地上に集落、端部や縁辺部に古墳がみられる。

小結

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">◆ 前方後円墳、前方後方墳の築造は前期のみにみられる。◆ 前方後方形が先行するわけではなく、出現期から前方後円形が選択されている。◆ 秋葉山古墳群、上浜田古墳群の造営母体は概ね現在の海老名市域の集落とみる。◆ 大（応）神塚古墳は寒川町から茅ヶ崎市域の相模川下流域の集落が造営母体か。◆ 各集落、小地域間是有機的なつながりをもっていたのではないかとの見方がある。◆ 東岸と西岸では古墳立地と景観はやや異なる。 |
|--|

(2) 中期古墳

【古墳の特徴】

東岸 太鼓塚古墳（上浜田 5 号墳）、上浜田 2 号墳（海老名市）、社家宇治山遺跡
西岸 吾妻坂古墳、大久根古墳、山ノ上 1、2 号墳・稲荷山 1 号墳、岡津古久古墳、
ぬるみずたかつぼ 温水高坪古墳、おやしきぞろ 御屋敷添遺跡 1 号墳・及川伊勢宮遺跡 2・3 号墳（厚木市）

- 東岸・西岸ともに中流域に分布し、厚木市域に特に集中。
- 吾妻坂古墳が代表的で、多量の副葬品（銅鏡、鉄剣、玉類など）が出土。
- 主に円墳が多く、墳丘径は 20～30m が主流。
- 円形の周溝のみ発見されることもあるが、細かい時期がわからないものが多い。
- 自然堤防上に円墳（周溝のみ）もみられる。

【集落の特徴】

- 集落数が激減、規模も小さくなる。特に前半はその傾向が顕著。
- 自然災害が影響した可能性も指摘される。
- 分布傾向は前期と同じ。
- 5 世紀後半には竪穴住居にカマドがみられる。
- 土師器の変化、関西地方などから須恵器の搬入。

(3) 後期・終末期古墳

【古墳の特徴】

東岸 谷原古墳群、当麻東原古墳（相模原市）、河原口坊中遺跡、伊勢山 2 号墳（海老名市）、宮山中里遺跡、くらみかわのぼり 倉見川登遺跡、大神塚周辺古墳群（寒川町）、石神古墳、十二天古墳群（茅ヶ崎市）、チンガ塚古墳（藤沢市）ほか
西岸 登山古墳群、依知古墳群、小野古墳群（厚木市）、北高森古墳群、埴免古墳、登尾山古墳、おのやま 三ノ宮 3・7 号墳、こやす なかがわら 子易・中川原遺跡（伊勢原市）ほか

【東岸】

- 6 世紀初頭以降、海老名、座間市の丘陵・台地上に古墳がほとんどみられなくなる。
- 横穴式石室を持つ古墳は相模原市南部、寒川町にみられる。
- 茅ヶ崎市、藤沢市市域にも小規模な古墳の存在が認められる。
- 低地に小石室や円墳、前方後円墳が群集する。
- 低地と台地の境界の斜面には横穴墓が盛んに造られる。

【西岸】

- 厚木市の台地上に直径 10～20m の円墳が非常に多く群集。横穴式石室も多い。
- 平塚市域では低地や砂丘上で小規模な古墳がみられる。
- 横穴墓も斜面部に多く造られる。
- 終末期には大山南麓に横穴式石室の古墳が現れ、継続して造られる。

- 登尾山古墳、埴免古墳からは装飾性が高い馬具や大刀など副葬品が出土。

【集落の特徴】

- 墓域と集落域が分かれる。
- 前代になかった場所に集落が営まれる例がある。
- 集落数が増える。
- 大型の建物跡がみられる。
- 甕に地域の特徴があらわれる。
- 静岡県湖西地域から須恵器、埼玉県比企地域から赤い特徴的な土師器の坏の搬入。

4. 前期に広がる玉づくり

相模川流域では、弥生時代終末から古墳時代前期にかけて丹沢山地(厚木市玉川流域)に見られる緑色凝灰岩を使った玉類の工房跡等が確認されています。玉作りは弥生時代前期に山陰地方で始まり、中期には北近畿や北陸地方に伝わり、その後各地で作られるようになりますが、高度な技術が必要で、相模川流域では北陸地方の玉作りの技術の伝播がありました。中～下流域で古墳時代前期に主に管玉作りが盛んに行われました。

管玉などの完成品の具体的な供給先は判明していませんが、稲荷前1号墳(横浜市)、東野台2号墳(横浜市)、日吉観音松古墳(横浜市)出土の太形管玉は、本郷遺跡出土の管玉未製品と類似すると指摘されています(稲村 2018)。

古墳時代前期に広く行なわれていたとみられる玉作りですが、前方後円墳・前方後方墳の築造終焉と同じ頃に見られなくなり、中期には継続しません。

- 坪ノ内・久門寺遺跡(伊勢原市) 北陸地域の特徴を持つ土器が複数出土、相模川流域での玉作りのはじまりを示すものと見る。
- 本郷遺跡(海老名市) 工房として使われた前期後半の竪穴住居跡。管玉以外に勾玉、石釧(腕輪)や紡錘車形石製品などの未製品、様々な砥石などが出土。
- 北陸地域の玉作り技術の伝播を受け、相模川流域では管玉を中心に製作。

【玉製作関連遺跡】

東岸：本郷中谷津遺跡(海老名市)、社家宇治山遺跡(海老名市)、倉見才戸遺跡(寒川町)、大屋敷B遺跡(茅ヶ崎市)

西岸：温水三反町遺跡(厚木市) など

相模川流域以外：久野多古墳遺跡(小田原市)、永塚北畑遺跡(小田原市)、持田遺跡(逗子市)

5. 水辺で行なわれた祭祀

古墳時代中期を中心に、相模川流域低地で土器などを集積する祭祀遺構がみられ、その調

査事例が増えています。低地の河道や湧水地のそばに、土師器小型壺、高杯、杯、甕、甗、^{かめ こしき}、ミニチュアの土器、滑石製模造品や白玉などを一箇所に集積するもので、時期により須恵器の甕や杯等も伴います。

このような水辺の祭祀は全国的に5世紀代に各地で多くみられるもので、水資源の王権や首長による管理と関連するものと考えられています。

- 勝坂有鹿谷祭祀遺跡（相模原市）が代表的。銅鏡、石製模造品などが出土。
- 河原口坊中遺跡や中野桜野遺跡でも確認されている。
- 沢狭遺跡（平塚市）で祭祀遺構等から土師器、須恵器、石製祭具、木製品などが多量に出土。南原C遺跡（平塚市）でも確認されている。
- 相模川流域以外では三ツ俣遺跡・千代南原遺跡・久野下馬下遺跡（小田原市）などにも認められる。

6. 馬の出現

馬が朝鮮半島経由で列島にもたらされたのは古墳時代中期とされます。馬に関連する遺出土品は、馬具、馬骨、馬形埴輪が挙げられます。

相模川流域での馬具の副葬は横穴式石室導入頃と遅く、馬の獲得に出遅れていたようです。武蔵国域では地域的に差はあるものの、より早い時期から馬具の副葬がみられます。

馬の飼育は古代の東山道エリアである長野県や群馬県域で5世紀代から行われ、王権への貢納や有力豪族への譲渡が行われていたものとみられます。

伊勢原市域大山東南麓の終末期古墳には装飾性に優れた立派な馬具の副葬が知られるほか、鉄製の馬具の副葬もみられます。流域周辺の有力者層が馬を保有したと考えられます。

また、6世紀代の登山古墳（厚木市）では馬の埴輪片が出土しており、首長層にとって、馬は権威を象徴する憧れのアイテムだったのでしょう。

【馬具出土の古墳】

東岸：小野古墳群（厚木市）、当麻東原古墳（相模原市）など

西岸：北高森3号墳、埴免古墳、登尾山古墳、上栗原5号横穴墓（伊勢原市）など

7. おわりに

古墳築造開始と発展は、各地の発掘調査成果をたどっていくと、地域により多様です。とはいえ古墳時代のはじまりから約350年の中で、中央と地方の政治体制が確立されていきます。その過程は遺跡にどのようにあらわれているのでしょうか。

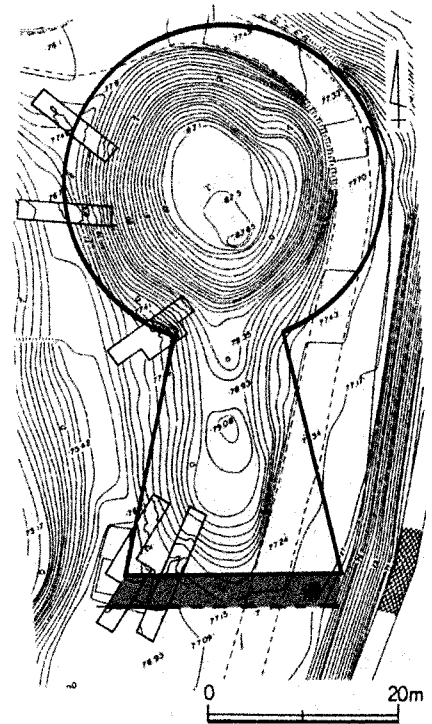
古墳時代の研究は時期や遺物、遺構などが細分化されており、それぞれの分析は進んでいますが、複雑さゆえに時代的動向が理解しにくいことが課題ではないかと思います。発掘調査の成果を公開することで、地域史が明らかになり、列島の歴史観がより深まることでしょう。発掘調査成果の公開に努めていきたいと思っています。

引用参考文献

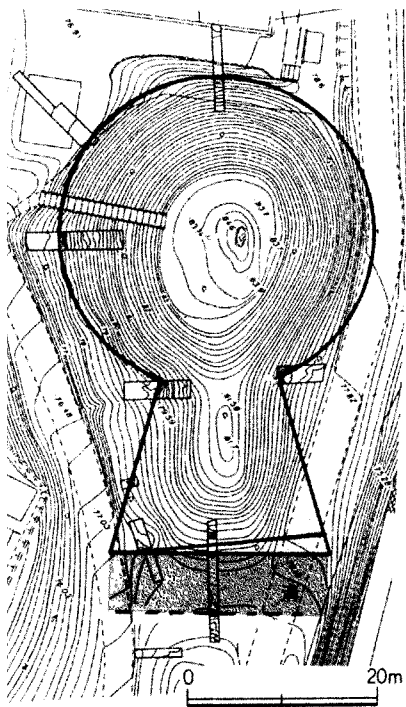
- 厚木市教育委員会 1967『厚木市登山古墳調査概報』厚木市文化財調査報告書 第8集
- 厚木市教育委員会 1998『厚木の古墳』厚木市文化財調査報告書 第38集
- 厚木市教育委員会 2024『令和5年度あつぎの遺跡展 再発見!! あつぎの古墳ガイド』
- 吾妻坂古墳出土資料研究委員会 2004『吾妻坂古墳―出土資料調査報告―』厚木市教育委員会
- 吾妻坂古墳出土資料研究委員会・西川修一編 2004『神奈川県厚木市吾妻坂古墳出土資料調査報告』厚木市教育委員会
- 飯野拓哉ほか 2025『相模国分寺跡・国分宿遺跡発掘調査報告書―第28次調査―』株式会社パスコ
- 海老名市遺跡調査会 1997『瓢箪塚古墳 上浜田古墳群第7号墳 発掘調査報告書』海老名市教育委員会
- 海老名市教育委員会 2002『秋葉山古墳群第1.2.3号墳発掘調査報告書―第5～9次調査―』
- 海老名市教育委員会 2002『シンボジウム墳丘墓から古墳へ～秋葉山古墳群の築造～』
- 海老名市教育委員会 2017『上浜田古墳群第2号墳発掘調査報告書』
- 海老名市教育委員会 2019『新発見! 相模川の低地で見つかった古墳と玉』第40回海老名市温故館企画展
- 海老名市教育委員会 2023『国分尼寺北方遺跡発掘調査報告書―第49・58次調査―』
- 海老名市教育委員会 2025『太鼓塚古墳―上浜田古墳群第5号墳―発掘調査報告書』
- 海老名市教育委員会 2025『秋葉山古墳群国指定20周年記念講演会～秋葉山古墳群と南関東の出現期古墳を再考する～発表要旨』
- 小田原市教育委員会 2025『最新出土品展 2025 企画展「古墳時代前期の謎に挑む」』
- 小田原市教育委員会 2025『令和7年小田原市遺跡講演会古墳時代前期の謎に挑む資料集』
- 神奈川県考古学会 1998『考古学入門講座神奈川の古墳―その出現と展開―発表要旨』
- 上高津貝塚ふるさと歴史の広場 2019『第22回企画展常陸の玉作り』
- 公益財団法人かながわ考古学財団 2004『宮山中里遺跡、宮山台畑遺跡』かながわ考古学財団調査報告 170
- 公益財団法人かながわ考古学財団 2019『相模川中流域の古墳時代を考える～さがみ縦貫道(圏央道)における低地遺跡の調査成果から～』公益財団法人かながわ考古学財団公開セミナー2019
- 公益財団法人かながわ考古学財団 2022『古墳時代後期から終末期にかけての様相を探る』令和3年度東京・神奈川・埼玉埋蔵文化財関係財団普及啓発連携事業公開セミナー
- 公益財団法人かながわ考古学財団 2023『及川伊勢宮遺跡見学会資料(厚木市 No. 98 遺跡)』
- 公益財団法人かながわ考古学財団 2025『令和7年度発掘調査成果発表会・公開セミナー資料集』
- 財団法人かながわ考古学財団 1998『御屋敷添遺跡第3～5地点 高森・一ノ崎遺跡 高森・窪谷遺跡』かながわ考古学財団調査報告 33
- 斎藤あや 2022『勾玉 特別展大勾玉展図録』大田区郷土博物館
- 相模原市 2010『勝坂有鹿谷祭祀遺跡資料報告書』相模原市史調査報告書 6
- 白川美冬 2025『1 金目川流域における弥生時代中期から古墳時代中期』『北金目からみつめる地域社会発表要旨・資料集』真田・北金目遺跡群集落復元プロジェクト
- 鈴木靖民・望月幹夫監修 2023『厚木市史』古代通史編 厚木市教育委員会
- 関根孝夫ほか 1999『平塚市史』11 上別編考古(1) 平塚市
- 第9回東北・関東前方後円墳研究会大会実行委員会 2004『シンポジウム東日本における古墳出現について 発表要旨資料』東北・関東前方後円墳研究会
- 玉川文化財研究所 2022『河原口坊中遺跡第9次調査』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 90
- 玉川文化財研究所 2023『河原口坊中遺跡第12次調査』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 99
- 戸田哲也ほか 1988『沢狭遺跡発掘調査報告書』金目郵便局用地内遺跡発掘調査団
- 西川修一ほか 2005『東日本における古墳の出現』考古学リーダー4 東北・関東前方後円墳研究会
- 浜田晋介ほか 2006『弥生・古墳・飛鳥を考える―古墳の出現とその展開―』川崎市民ミュージアム
- 日高慎ほか 2024『古墳時代の交通と流通』考古学調査ハンドブック 25
- 平塚市博物館 2001『相模国の古墳―相模川流域の古墳時代―』
- 松木武彦 2025『古墳時代の歴史』講談社
- 三木弘 2022『国分尼寺北方遺跡 昭和63年発掘調査の報告』海老名市国分尼寺所在遺跡調査団
- 三木弘 2011『古墳社会と地域経営』学生社
- 望月幹夫 1986『古墳時代における地域社会の一樣相―相模川流域の前・中期古墳を中心として―』『東京国立博物館研究紀要』22 東京国立博物館
- 山口正憲 2002『山ノ上2号墳出土土器の再検討』『青山史学』第19号 青山考古学会
- 山口正憲 2024『相模地域の概要』『出土土器から見た古墳の年代』東日本古墳確立期土器検討会
- 渡辺務 2014『河原口坊中遺跡第6次調査』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 24 アークフィールドワークシステム



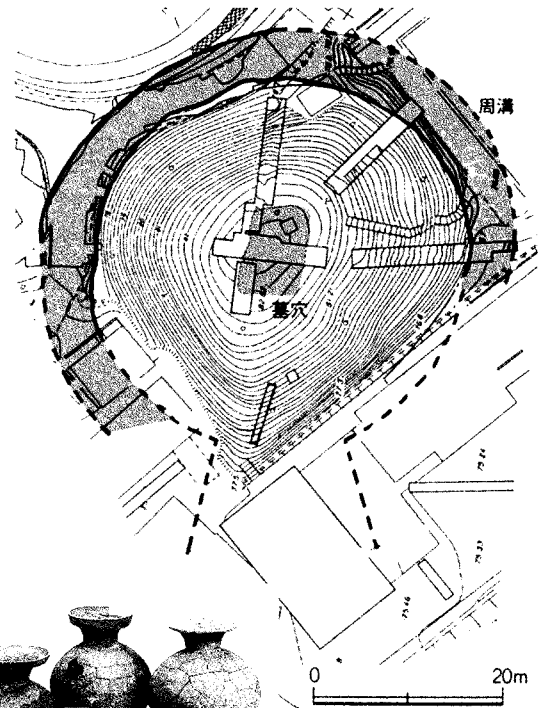
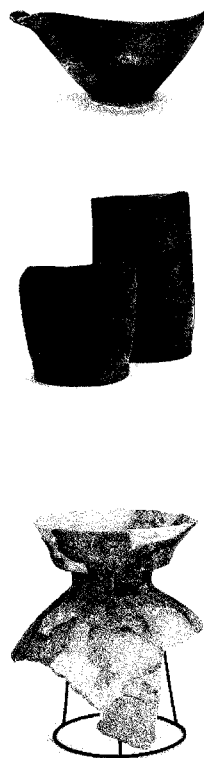
秋葉山古墳群 配置図



秋葉山古墳群 第1号墳

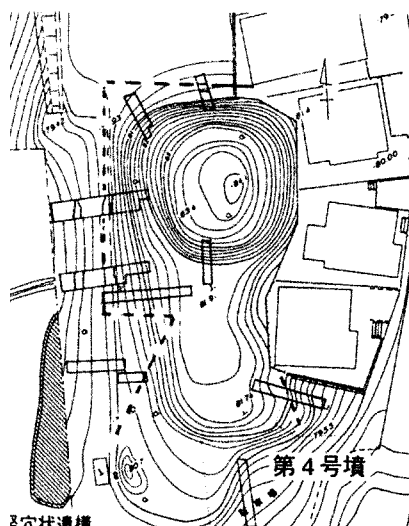


秋葉山古墳群 第2号墳

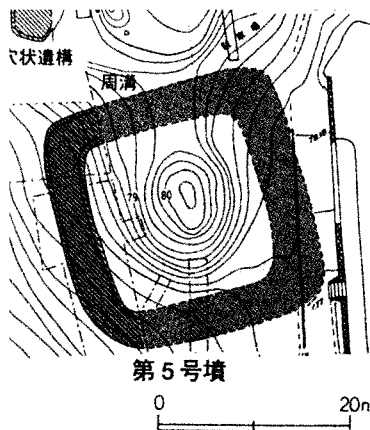


秋葉山古墳群 第3号墳

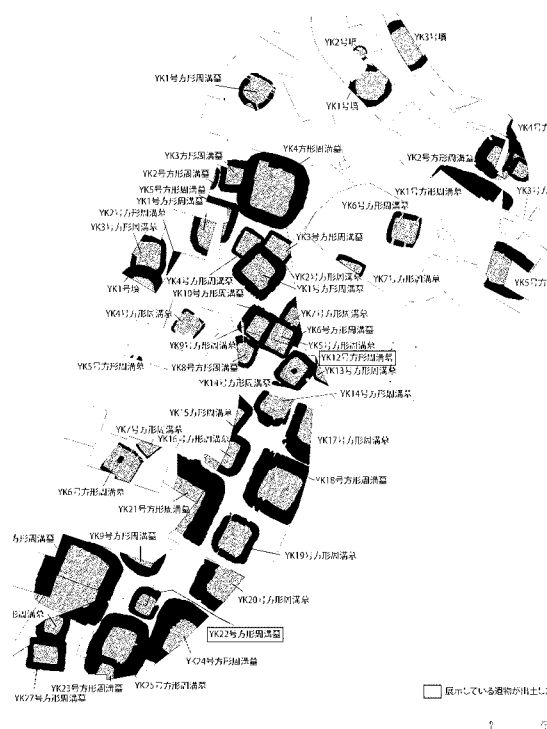
(海老名市教育委員会 2002)



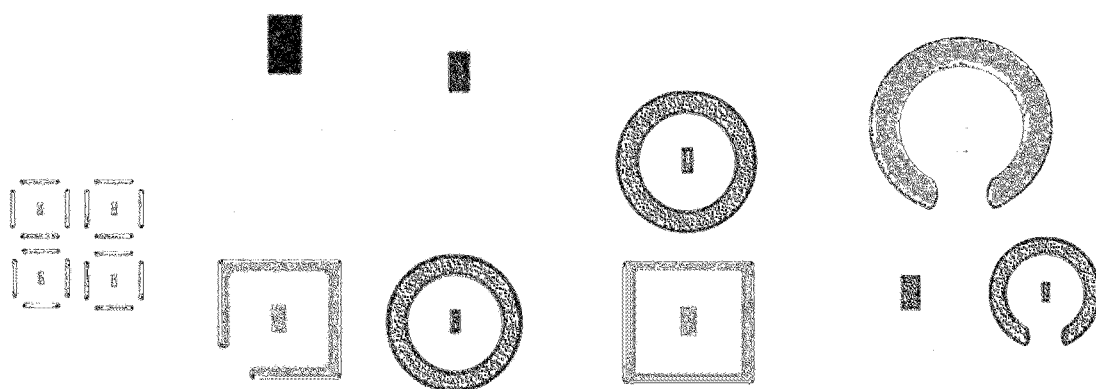
秋葉山古墳群 第4号墳
(海老名市教育委員会 2002)



秋葉山古墳群 第5号墳

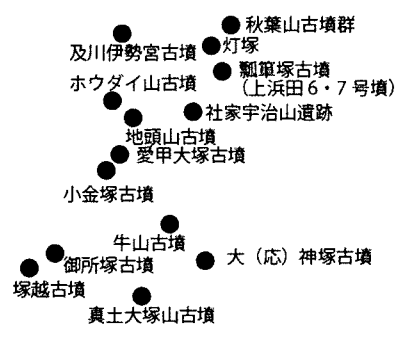


社家宇治山遺跡方形周溝墓群
(弥生時代後期～古墳時代前期)



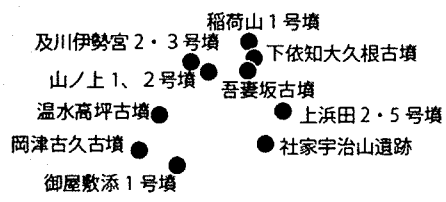
時代 時期	弥生時代	古墳時代		
	中～後期	前期	中期	後期～終末期
墳墓の形	方形周溝	前方後円・前方後方・方・円 方形周溝墓も併存	方・円 方はなくなる	円、前方後円、上円下方 横穴墓
埋葬施設	直葬	木棺直葬	木棺直葬	木棺直葬 横穴式石室導入
事象		玉造り	水辺の祭祀	馬導入

相模川流域の古墳変遷概略図



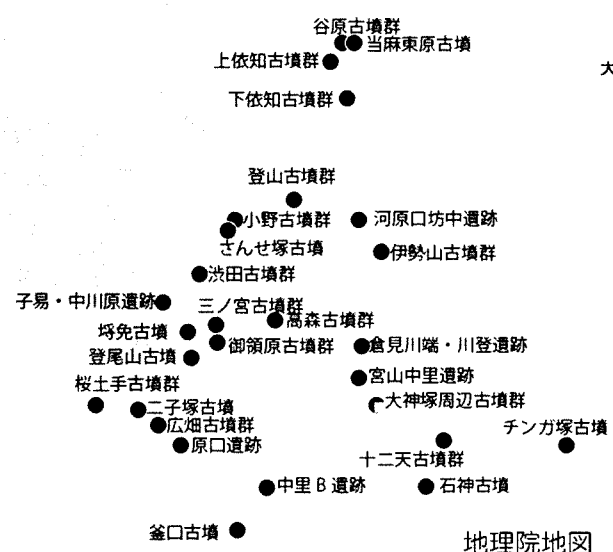
地理院地図
GSI Maps

相模川流域の前期古墳分布図



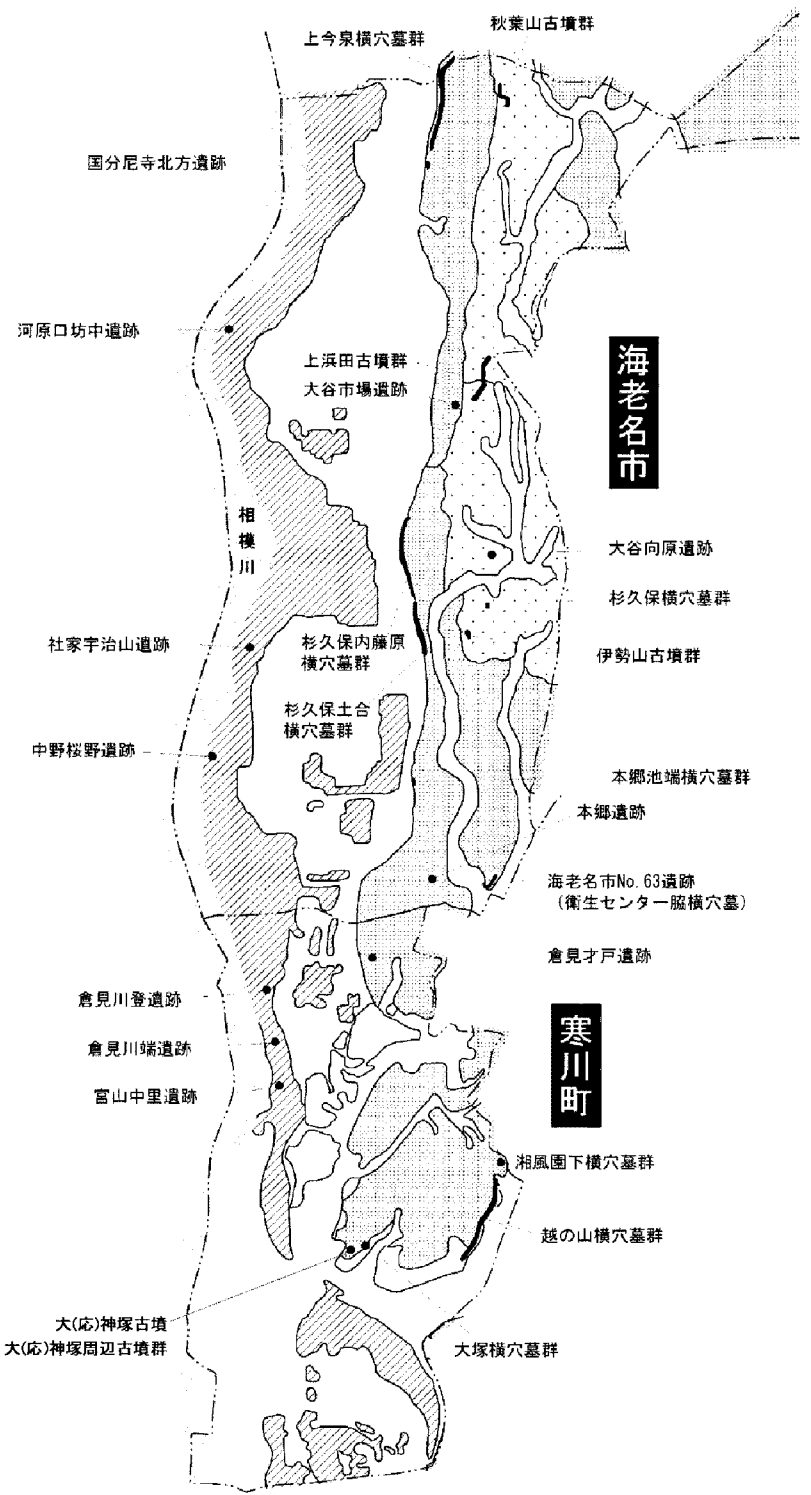
地理院地図
GSI Maps

相模川流域の中期古墳分布図

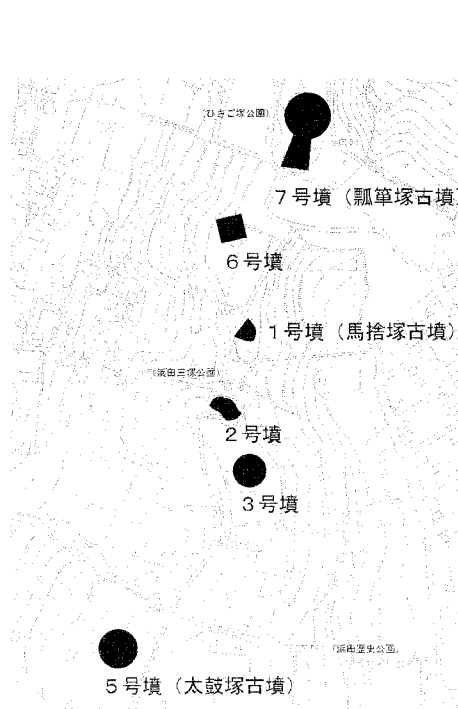


地理院地図
GSI Maps

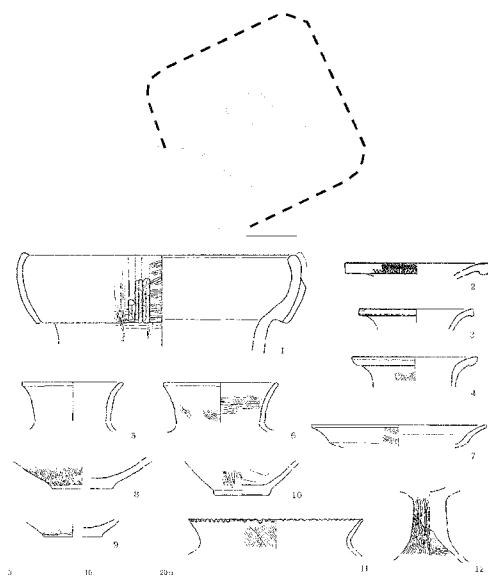
相模川流域の後期・終末期古墳分布図



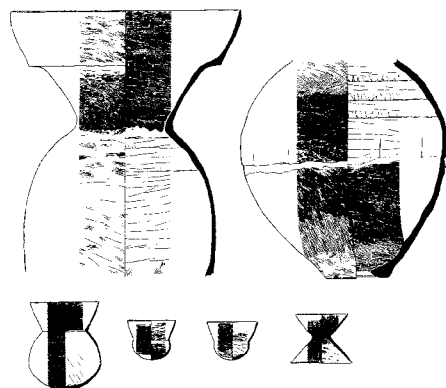
相模川東岸の古墳・横穴墓・
関連遺跡分布図
(海老名市教育委員会 2019)



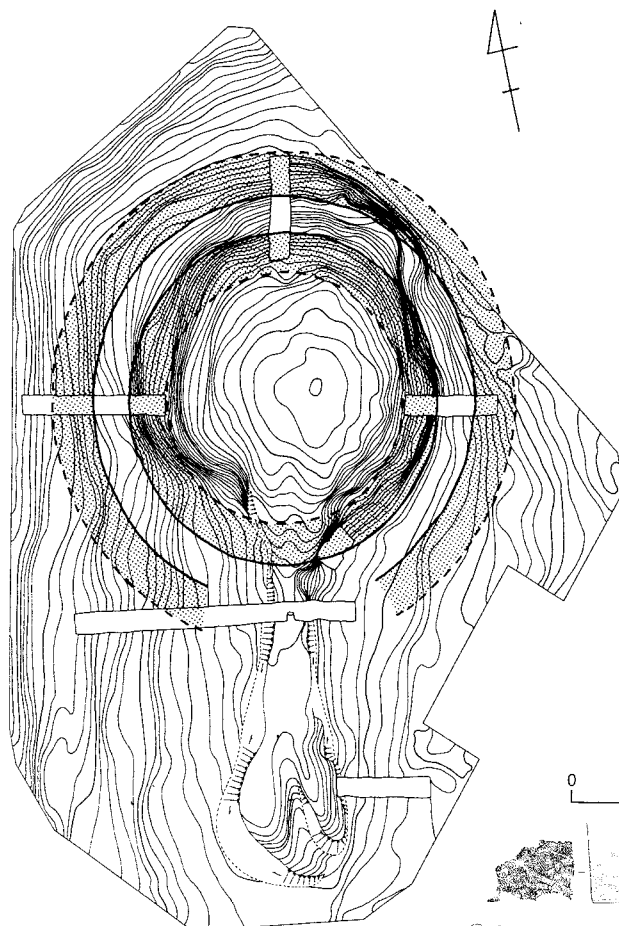
上浜田古墳群 配置図



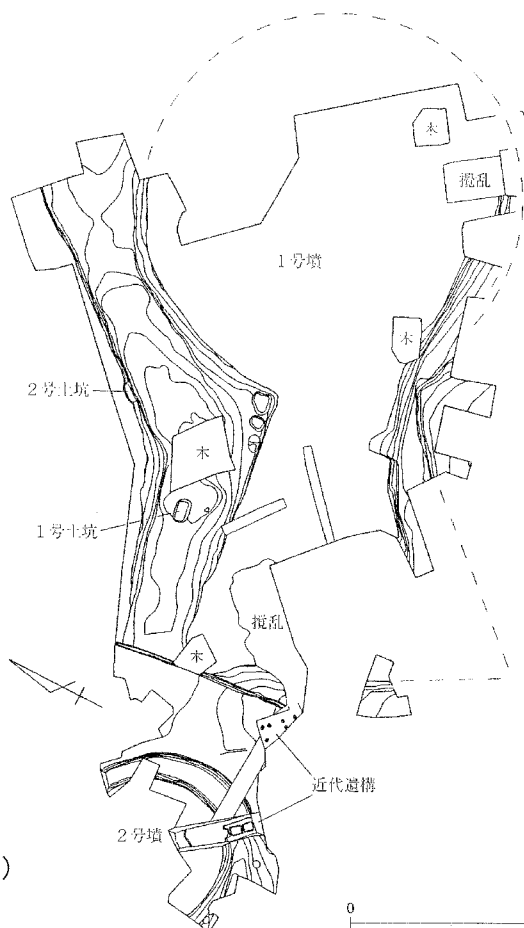
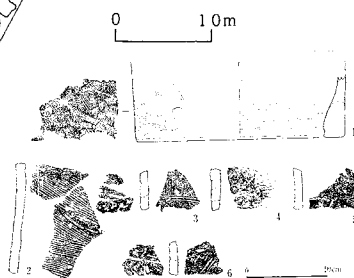
灯塚と周辺で出土した土器
(三木 2022 一部加筆)

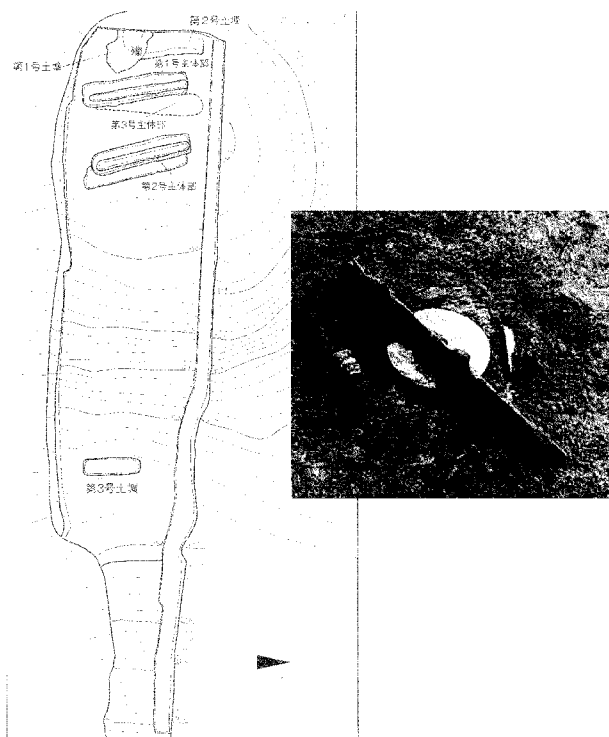


ホウダイヤマ1号墳と出土遺物 (鈴木ほか 2023)

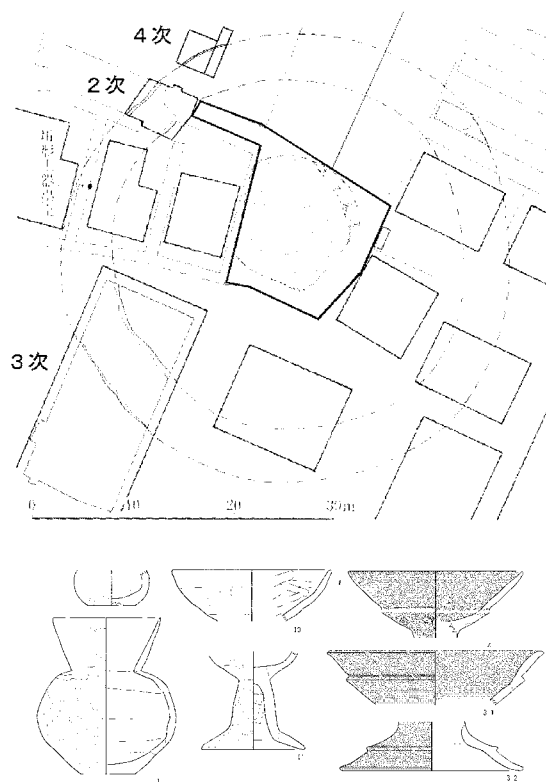


瓢箪塚古墳
(上浜田古墳群 第7号墳)
(海老名市遺跡調査会 1997)

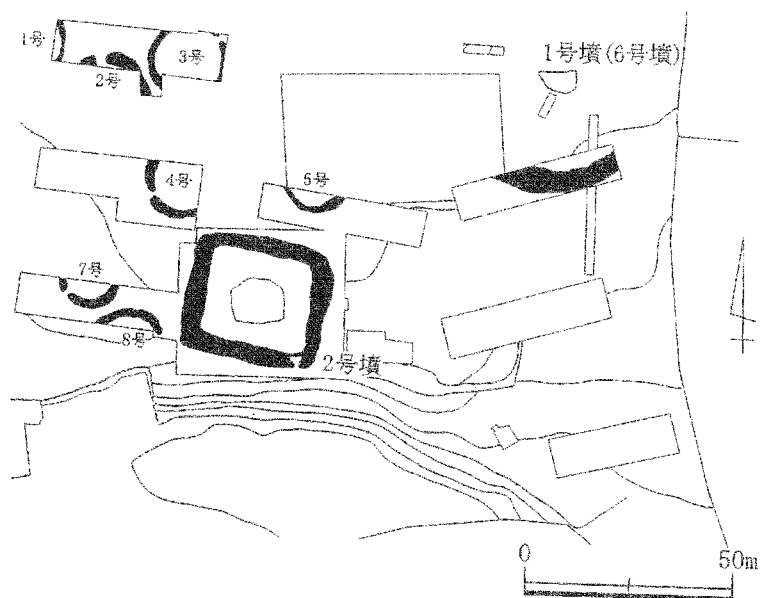




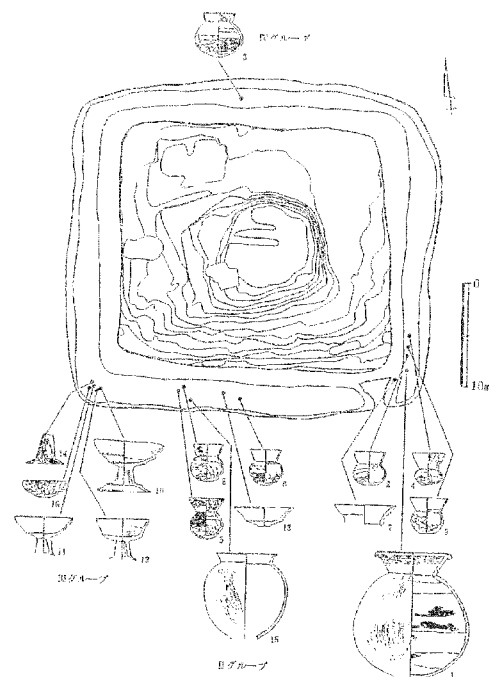
吾妻坂古墳全体図
(厚木市教育委員会 2004)

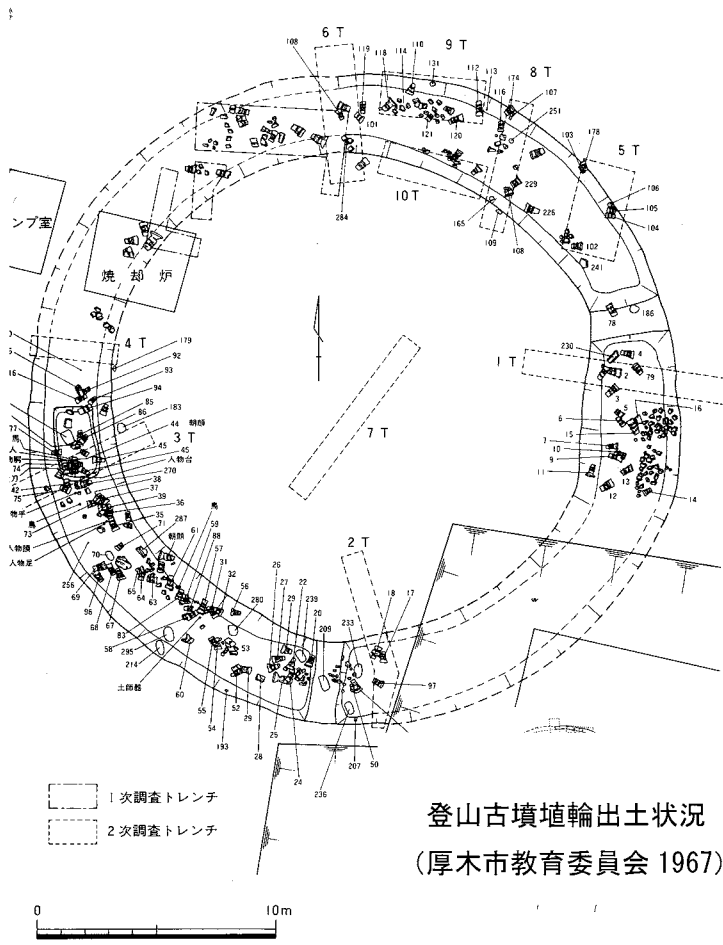


太鼓塚古墳全体図 出土土器
(海老名市教育委員会 2025)



山ノ上古墳群全体図と2号墳 (山口 2002 一部改変)





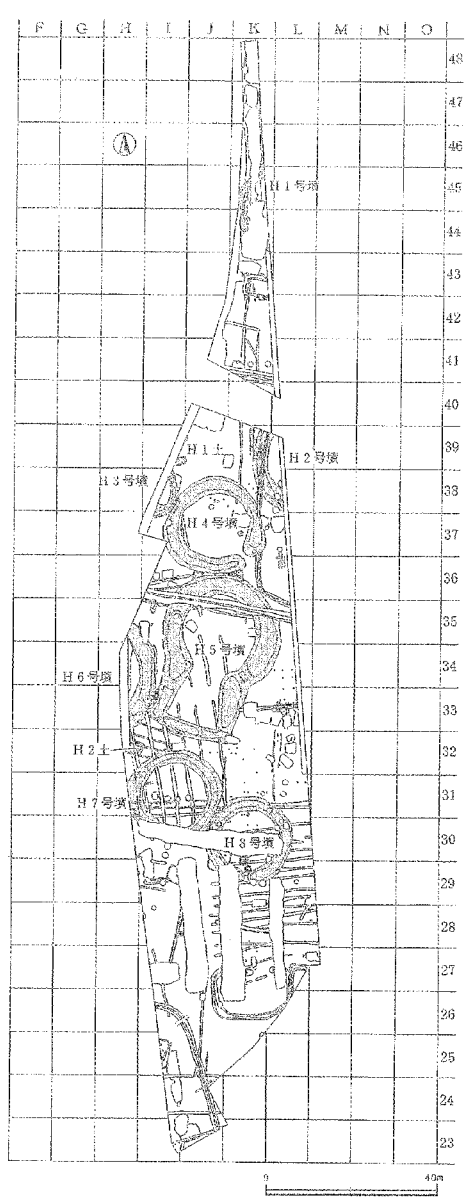
登山古墳埴輪出土状況
(厚木市教育委員会 1967)



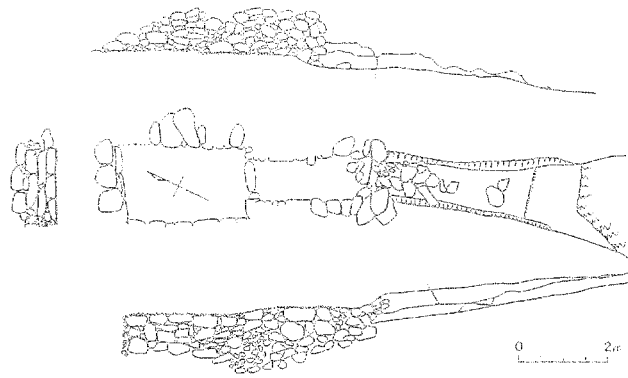
登山古墳出土埴輪 (厚木市ホームページより)



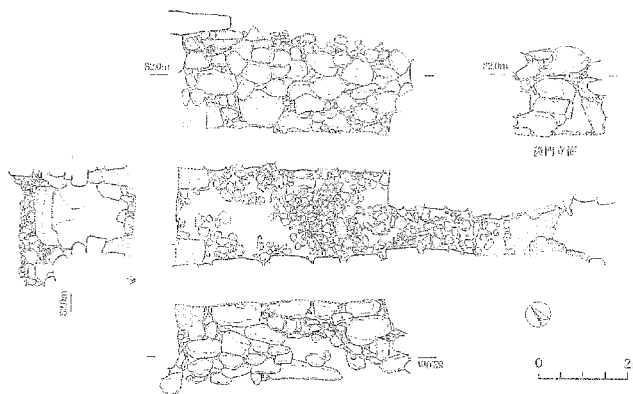
河原口坊中遺跡 小石室
(神奈川県教育委員会)



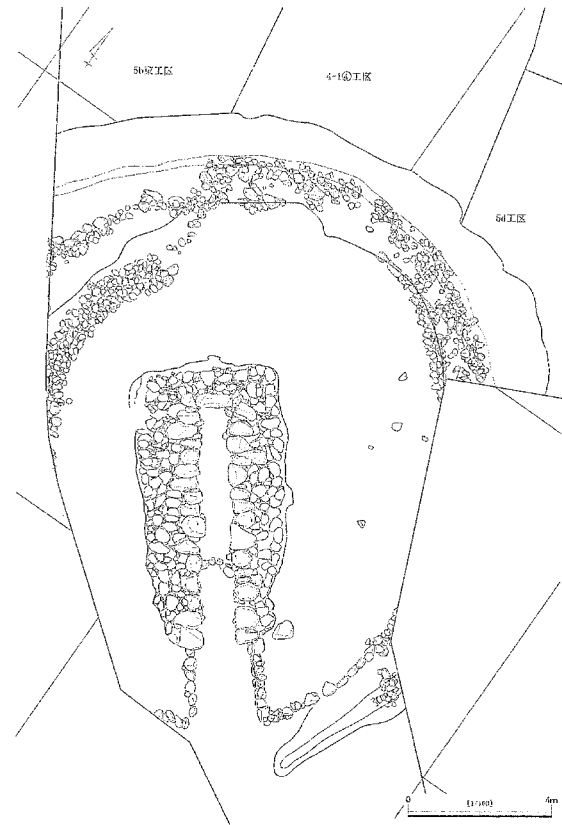
宮山中里遺跡
低地に密集する古墳
(公財)かながわ考古学財団 2004)



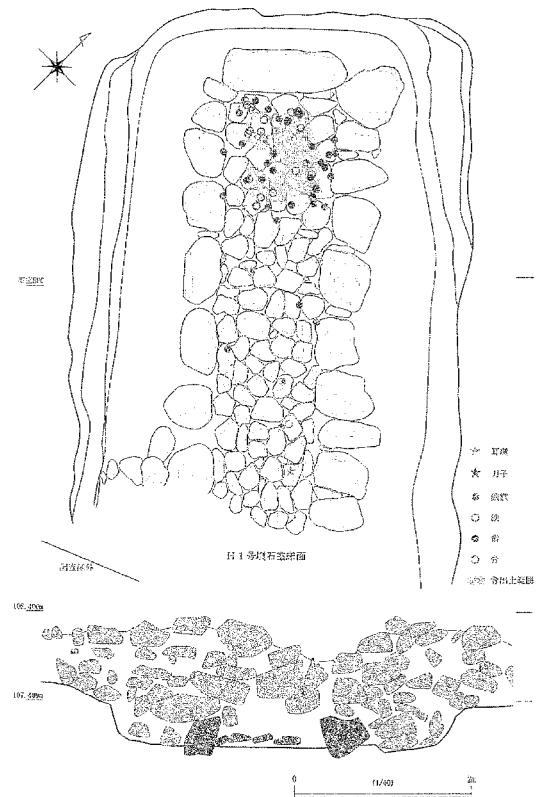
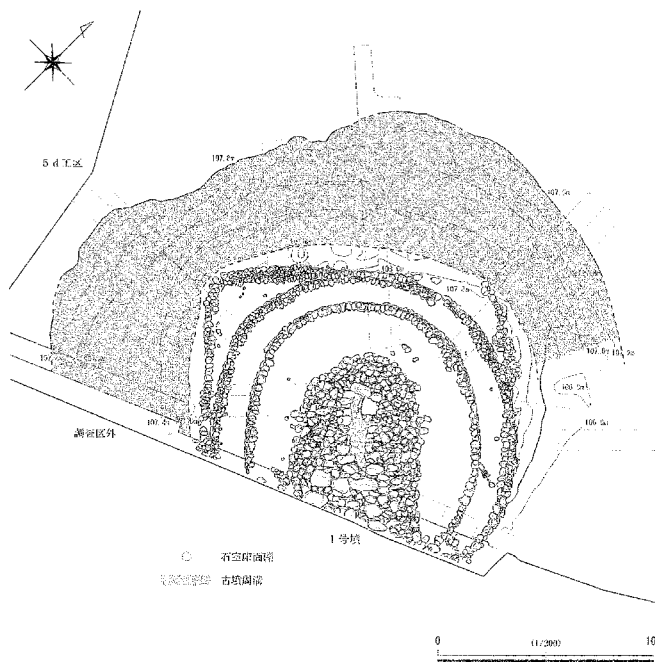
第10図 登尾山古墳 (田尾 2007)



第11図 埤免古墳 (田尾 2007)



第12図 子易・中川原遺跡2号墳 (野坂 2019)



第13・14図 子易・中川原遺跡1号墳 (野坂 2019)

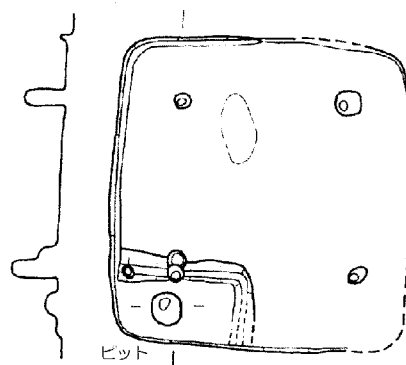
終末期の古墳 ((公財) かながわ考古学財団 2022)



神奈川県内玉作り関連遺跡位置図

- 1 社家宇治山遺跡
- 2 本郷遺跡
- 3 本郷中谷津遺跡
- 4 上谷本遺跡
- 5 大屋敷B遺跡
- 6 温水三反町遺跡
- 7 坪ノ内・久門寺遺跡
- 8 倉見才戸遺跡

沖積地
台地
丘陵
山地



本郷遺跡 OS11 号住居跡

▲玉工作用のピットを持つ工房跡は5軒。

玉作りの工房跡



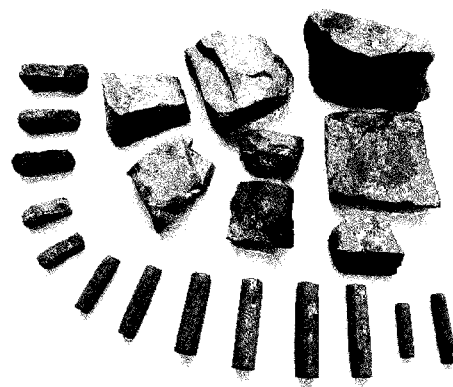
本郷遺跡出土玉作関連資料(OS 5号・11号竪穴住居跡)

▲右から2番目：穿孔具による残屑、右端：玉杖の杖身の未製品

原石→荒割→形割→調整→研磨→穿孔の工程が確認できます。

緑色凝灰岩製

海老名市教育委員会蔵



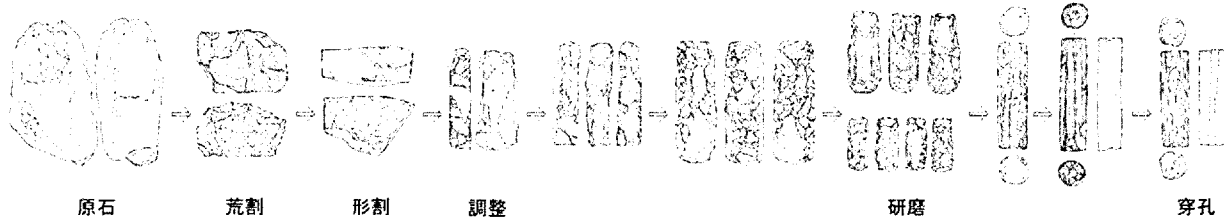
社家宇治山遺跡出土玉作関連資料

(YK23号・30号竪穴住居跡)

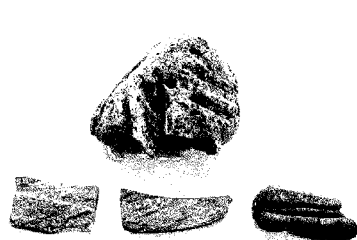
▲YK23号住は荒割中心、YK30号住は形割・研磨・穿孔中心

緑色凝灰岩製

神奈川県教育委員会蔵

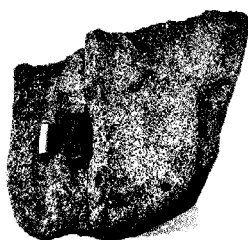


管玉の製作過程(本郷遺跡)



玉作製作の砥石(本郷遺跡)

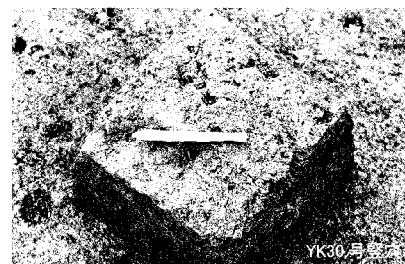
海老名市教育委員会蔵



砥石と研磨途中の管玉未製品

(坪ノ内・久門寺遺跡)

伊勢原市教育委員会蔵



鉄製の錐きり(社家宇治山遺跡)

玉作りの道具

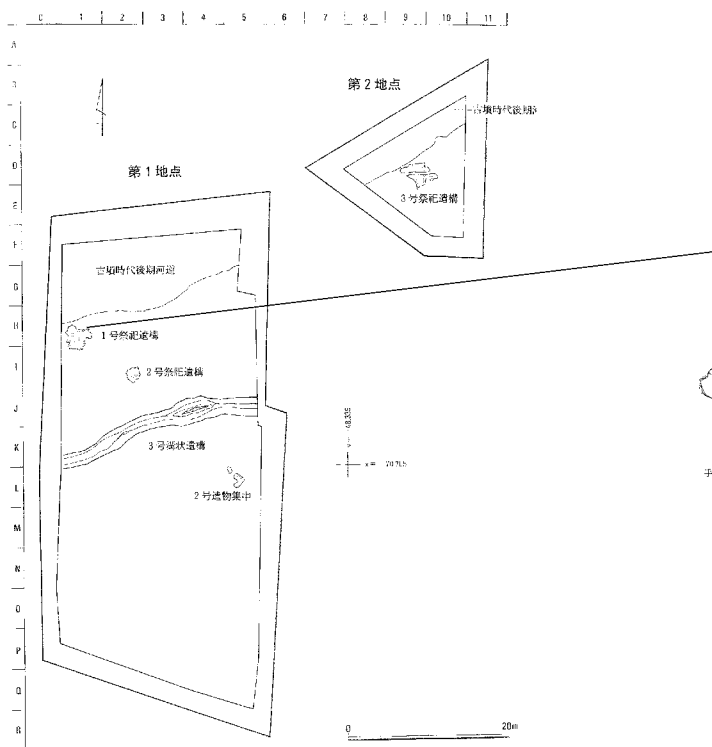
(海老名市教育委員会 2019)



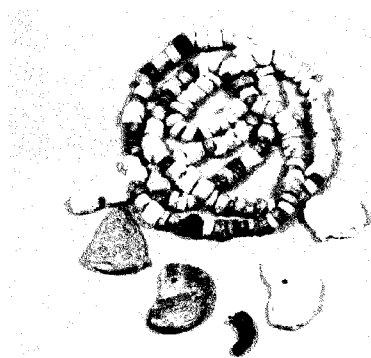
河原口坊中遺跡第12次調査 2区H1号遺物集中
(神奈川県教育委員会)



中野桜野遺跡 31号土坑 (神奈川県教育委員会)

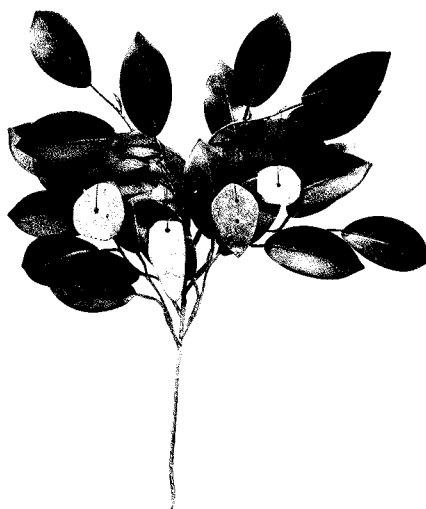


沢狭遺跡 河道と祭祀跡、1号祭祀遺構

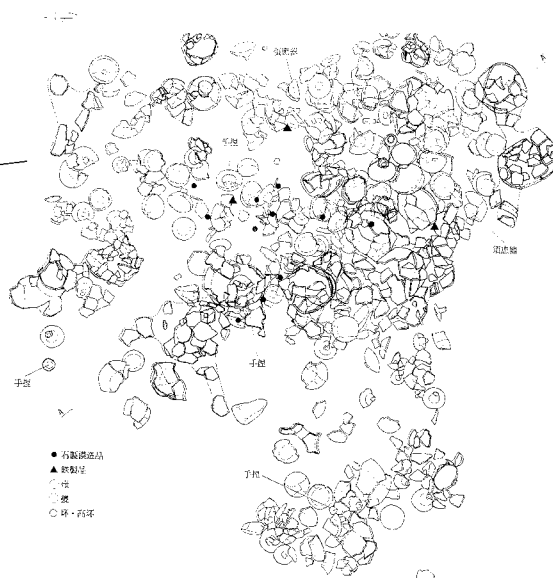


6次調査

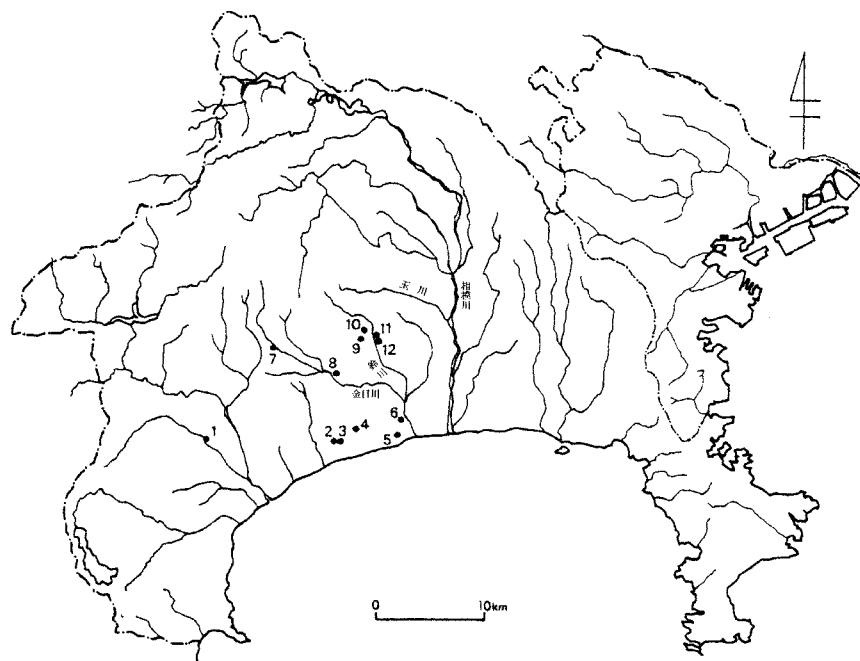
河原口坊中遺跡出土石製品
(神奈川県教育委員会)



石製模造品の祭祀での使用イメージ
福島県白河市建鉾山遺跡ほか
國學院大學博物館蔵
國學院大學 HP 器物データベースより



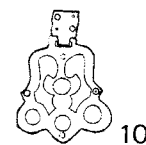
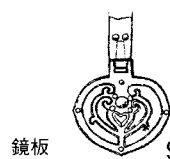
(戸田ほか 1998 より)



(伊勢原市ホームページより)

相模国領域出土の金銅装馬具

No	遺跡名	種類
1	塚田2号墳	しおで金具、鞍金物
2	藤訪脇西9号横穴墓	帯金具?
3	藤訪脇C6号横穴墓	帯金具
4	下田6号横穴墓	しおでの座金具?、二脚板
5	前谷原横穴墓群	辻金具
6	高根8号横穴墓	花形杏葉、雲珠
7	桜上手38号墳	辻金具、帯金具
8	菅原大字斎ヶ分	雲珠、辻金具
9	登尾山古墳	鏡板付轡、杏葉、雲珠、辻金具、帯金具、二脚板
10	らちめん古墳	鏡板付轡、杏葉、鞍金物
11	三ノ宮3号墳	雲珠
12	鈴川古墳	雲珠、カコ



鏡板

9

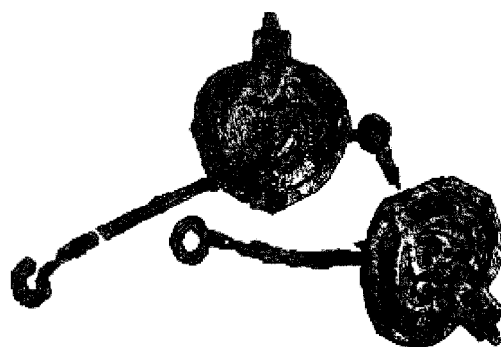
10



埴免古墳出土馬具 (伊勢原市ホームページより)



埴免古墳石室 (伊勢原市ホームページより)



登尾山古墳出土馬具
(伊勢原市ホームページより)